

児童朝会 講話 ■令和3年11月 8日

№17 「星をみよう」

おはようございます。

校長先生の声届いていますか？

今日は、校長先生が小学生だったときに、卒業式の日聞いたお話を今も良く覚えているのでそのお話をしますね。

卒業式の日朝、教室では卒業式を直前にひかえて、みんな少し興奮してお互いにおしゃべりでもりあがっていました。そんなときに担任の先生がこられて、「それでは今から小学校最後のお話しをします。」と言われてみんな急に静かになって、まじめに先生のお話を聞き始めました。すると、先生は「これからさき、中学生や高校生になったとき、大人になっていくと、楽しいことばかりではありません。とても悲しい、つらいときもあるでしょう。そんなときにどうするか？

星をみてください。夜に、一人で星をみるのですよ。するとだんだん悲しい気持ちもなくなっていきます。お月様でもいいですよ。どうかこれか先も健康で楽しい人生が送れますことを祈っています。さようなら。」とお話しされました。

校長先生は、はじめてその話を聞いたとき、なんだあ、そんな星をみるだけで、つらいことがなくなるもんかと考えていました。今、このお話を聞いたみなさんも、きっとそうだろうと思います。でも、いちどだまされたと思って、つらいときや悲しいときに、一人で星をみてください。

実際、校長先生も小学校を卒業してから、違う校区に引っ越しをしましたので、中学1年生のときは、誰も知らない状態で、8組まであったので300人ぐらい生徒はいるのですが、誰も知らない状態というのは、なかなかつらかった

です。1日学校に行っても、授業以外では一言もしゃべらない日々が続きました。そんなとき、ふと星をみなさいという言葉思い出して、星をみました。すると、本当に胸のもやもやが無くなっていったことを覚えています。

では、なぜ星をみるとそうなるのでしょうか？それは、星をみるときは、一人で見えるのですが、その一人で見ることが大切なんだと最近わかってきました。

当たり前ですが、星やお月様がなんかおもしろいことを言ってくれるわけでも、みなさんの苦しいことを聞いてくれるわけでもありません。でも、一人で星をみながら、胸の中のもやもやを考えると、だんだんその悩みも小さなことに思えてきたりするのです。それから、毎日のように星や月をみていました。

家のベランダからでも、マンションの階段からでも構いません。なんかつらいことがあったときには、ぜひ星や月をみてください。

ちょうど、今夜の8時ごろなら、お月様はでていないので、星も見やすいと思います。西の空には明るい木星が、東の空には冬の夜空を代表するオリオン座が昇ってきています。そんな星々のまたたきを見ていると、宇宙の広さ、大きさを感じて、自分の悩みが小さなものに感じてきますよ。

今年の3月に「つらいとき」というお話しをしましたが、そのときは「楽しいことを思い浮かべるといいよ」というお話しをしたかと思うのですが、今日はもう一つの解決方法のお話しをしました。

これで、校長先生のお話しを終わります。さいごまで、静かに聞いていただきありがとうございました。

また、よかったら校長室の前のボードに、今日のお話の感想をつぶやいてみてください。